パブリックコメント等に寄せられたご意見について

１　パブリックコメントの結果

募集期間　　平成 26 年 11 月 15 日（土）～12 月 15 日（月）

意見件数　　１４５件

２　団体へのヒアリングの実施

以下の５団体の活動場所や会議に出向き、意見をいただきました。

意見件数　　１７件

団体名	実施日
豊田市子ども会議	平成２６年１２月　７日
こども園園長会・こども園主任会	平成２６年１１月　６日・１３日
私立幼稚園協会	平成２６年１１月　５日
子育てサークル①	平成２６年１２月　９日
子育てサークル②	平成２６年１２月１２日

３　集計結果

１　各施策分野に関すること	
（１）妊娠中と出産後の親子の健康づくり	１件
（２）子育ての不安や負担の軽減	２３件
（３）安全安心な子どもの生活環境の整備	４件
（４）保育需要への対応	１９件
（５）良好な幼児教育・保育環境の確保	９件
（６）子どもの権利保障	１９件
（７）次代を担う青少年の健全育成	１９件
（８）ワーク・ライフ・バランスの推進	３件
（９）家庭教育力の向上	９件
（10）地域力を活かした子どもの育成	５件
２　その他	
計画全体に関すること	２２件
その他	１２件

資料１

４　主なご意見と市の考え方

【修正する必要があるご意見】

No.	意見主旨	市の考え方	ﾍﾟｰｼﾞ
1	「子供の権利の尊重」や「社会全体で子供を育てる」等の方針が記されていると認識するが、子供たちが多くの時間を過ごし、社会性を学ぶ場である「学校」の役割や、その重要性については、読み取れない。益々その役割を増す「学校」の在り方について、もっと言及し、注力すべきではないか？	子どもに関わる分野のうち、「学校教育」「文化」「スポーツ」など教育行政に関する市の方針や施策については、第２次豊田市教育行政計画にまとめています。本計画は、子どもの育ちや子育てを支援することを重視し、それらの分野については、対象外とし、その旨を計画案に記載します。	2
2	自分は子育てに関して悩みもなく、楽しく子育てできていると思っているが､｢家庭教育力や子育て力が低下している」と言われると、どの部分が低下しているのかわからない。	多くの家庭では問題はないと考えていますが、一部の保護者は、子育てに関して自信が持てなかったり、相談相手がいなかったり、様々な悩みや不安を抱え、二極化しているといえます。計画案の表現を修正します。	13 31
3	少子化に対する対策として、どういった取り組みを実施するのか？	計画案では、少子化対策として、安心して子育てができる環境の整備、幼児教育・保育の一層の充実、子育てしながら無理なく働くことができる環境の整備など、総合的に取り組みます。この考え方を計画案に記載します。	29
4	近年､子どもの貧困が問題となっている。こども園小中学校の給食費を無償化し、食べること、生きることへの保障をしてほしい。	給食費については、生活保護世帯又はそれに準ずる世帯に対し免除し、負担を軽減する制度を設けています。また、子どもの貧困については、「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が成立し、本計画においてはその対策の軸として「経済的負担の軽減」を基本施策として位置付け、積極的に対応していきます。この考え方等を計画案に記載します。	37 42
5	求職中でもこども園に入れるようなシステムに変えてもらう事はできないものかと思います。	平成２７年４月から子ども・子育て支援法に基づき、求職活動を理由とする入園も可能とします。就労の条件についても、月６０時間以上の労働とし、パート勤務の労働形態に対応します。また、祖母については入園要件を求めないこととし、入園要件を緩和し、これらを本計画に記載します。	48
6	以前､パート勤務向けの特定保育があり、そちらを利用していましたが、数年前に廃止となりました。核家族で、フルタイム仕事ができない家庭もあると思います。		
7	こども園の入園資格について、祖母の就労要件をなくしてほしい。今の時代、同居の祖母が孫を見るのは当たり前ではない。		

No.	意見主旨	市の考え方	ﾍﾟｰｼﾞ
8	放課後児童クラブと居場所づくり事業が重要と思います。特に田舎では、放課後児童と高齢者が交われるような居場所づくりがほしい。民家の一室でも良い。それをサポートする人材（近所のおばさんでも経験があればよい）の育成も重要である。	本計画では、親が就労しているなど留守家庭児童が利用する放課後児童クラブと、親の就労等に関係なく、全ての児童が活動する居場所づくり事業の一体的な運用を目指します。高齢者など地域の人々の力を活用し、地域の状況に合わせた形で実施します。計画案の表現を修正します。	55 74
9	（仮）若者サポートステーションの早期立ち上げ。就労支援だけでなく就学支援も考慮	計画案では、（仮）若者サポートステーションは、平成２7 年４月に開設します。自立に向けた相談に対応するとともに、就労等に向けた学習・訓練などを行います。また、個々の状況に応じ、就学支援についても対応します。その旨を計画案に記載します。	76
10	活動計画がいくら良くても使ってもらわないと何の役にも立たない。若者たちにどのように知らせるかが課題ではないでしょうか。	本計画は、行政だけでなく、子ども、親、地域等が関わりながら「共働」により推進していくため、基本理念や考え方、施策に対する市民の理解を深めることが重要であり、その旨を計画案に記載します。各種団体に対しては、研修会や活動の機会に出向き説明したり、子育て関連事業については、「子育て応援ハンドブック」を配布して、必要とされる対象者にタイムリーに情報を届けるよう努めます。併せて平成２７年度にはシンポジウムを開催し、計画の周知を図ります。	106

【その他の主なご意見】

No.	意見主旨	市の考え方	ﾍﾟｰｼﾞ
1	成果指標１【「安心して子どもを生み、健やかに育てることができるまち」として満足している市民の割合　69.7%⇒75.0%】に関し、目標を 85%ぐらいにすべきではないか	この目標は、前回調査で「満足していない」と答えた人（12.2%）のうち概ね半数が「満足している」に移行した場合の割合で設定しました。	29 ～ 31
2	成果指標２【0-2 歳児就園率 14%⇒27%、3 歳児就園率 76%⇒89%】に関し、目標をそれぞれ 50%、95%ぐらいにするべきではないか	指標としている就園率は、「豊田市子ども・子育て支援に関する市民意向調査」において、国が示す方法により算出した数値で、これに対応した受け入れ枠を確保することを目標とします。	

No.	意見主旨	市の考え方	ﾍﾟｰｼﾞ
3	成果指標３【ひきこもりの割合 3.1%⇒2.0%】に関し、１%未満とすべきではないか	ひきこもりに関する対策は、本計画より新たに重点的に取り組むこととしており、当面は平成２２年内閣府調査の全国結果約２%に近づけることを目標とすることが適当だと考えています。	29 ～ 31
4	成果指標４【「地域や隣近所の子育ての助け合いが充実している」と感じる市民の割合 42.7%⇒50.0%】に関し、目標を70%以上ぐらいとすべきではないか	この目標は、前回調査で「充実していない」と答えた人（12.9%）のうち概ね半数が「充実している」に移行した場合の割合で設定しました。	
5	０～２歳児の受け入れで、費用が掛からない様にして頂きたいです。やはり、若い世代は、給与が安い為です。妻が安定的に収入を得られたり、補助金をいただけたり、祝い金が多額にもらえるなどの制度の確立を希望します。	本市のこども園の保育料については、国が国庫負担の算出根拠として示している「保育料基準額」の約 50 パーセントに抑えており、中核市の中では最も低く、近隣自治体と比べても低く設定されています。 その他の負担軽減のための支援としましては、児童手当の支給、子ども医療助成など、計画案の中では「経済的負担の軽減」に位置づけた事業を実施していきます。	42 ～ 43
6	こども園は地域密着型（遠くのこども園に行くのではなく、近くのこども園に行けるようにすること）にし、公立優先にしてほしい。私立で枠を増やすのは市民の要望と異なっている。	本市では全国平均に比べて公立園の設置率が高い状況にあります。今後増加する保育需要に対しては、私立園の施設整備や運営には国県の財政支援を受けることができることなどから、私立園の力を活用して対応していくことが有効であると考えます。	46 ～ 49
7	放課後児童クラブの時間延長（せめてこども園とおなじ 19：00）を希望する。なぜ、現状、こども園と異なる時間となっているのかも知りたい。	本市の放課後児童クラブは、児童の健全な育成を図ることを目的とし、家庭で過ごす時間も大切にしてほしいという思いから、18：30 までの開設としています。計画案では、放課後児童クラブの委託化を推進し、民間の力を活用して、時間の延長を検討していきます。	55
8	高校生や大学生に社会参加運動を促進するためには、その裏側にいる、親たちやおじいさんおばあさんを教育していく必要があると思います。いじめ対策でも、児童・生徒達・学生達に話しかけることも大事ですが、やはり大人達の教育こそ肝要かと考えます。	本計画では、保護者、地域住民、学校等の協力を得ながら、保護者が集まって、仲間づくりや交流の場、子育てに関する研修や情報交換、相談する機会を提供する「親育ち交流カフェ」の実施を位置付け、家庭教育の推進を図っていきます。多くの保護者が気軽に参加できるよう配慮し、家庭教育手帳「親ノート」を活用するなど、楽しく、わかりやすく学び合えるよう工夫します。	77